

中山町自治会
環境事業推進委員
渡部 幸代さん

中山町自治会
環境事業推進委員
杉本 四士男さん

中山町自治会
環境事業推進委員
中村 華子さん

中山町自治会
環境事業推進委員
金丸 修さん

中山町自治会
環境事業推進委員
高橋 秀子さん

中山町自治会
環境事業推進委員
酒井 直子さん

中山町自治会副会長
新治中部地区環境事業推進委員会会長
中山町環境事業推進委員会代表
小室 敏秀さん

中山町自治会
環境事業推進委員
金子 アイ子さん

中山町自治会
環境事業推進委員
野村 宏美さん

中山町自治会
環境事業推進委員
安田 義雄さん

中山町自治会環境
事業推進委員
齋藤 利雄さん

中山町自治会環境
事業推進委員
志田 一郎さん

特集

リサイクル組合広報誌

23年目を迎えた

リサイクルデザイン



特集

リサイクル組合広報誌 23年目を迎えた リサイクルデザイン

毎月、資源物のリサイクルに関するさまざまな話題をご紹介してきた『リサイクルデザイン』が、今年23年目を迎えます。大きな節目ではありませんが、長年にわたって発行をつづけてきた本誌について、これまでを振り返りながら、改めて皆さんにご紹介したいと思います。創刊から今号までに掲載された記事を追いかけていくと、リサイクル組合の歴史があり、その内容には、横浜市のごみと資源物回収の取り組みとともに歩んできたリサイクル業の変遷が見えてきます。

資源リサイクルの普及をめざして 4人の歴代編集長が広報活動に邁進

リサイクルデザインの 誌名に込められた思い

本誌『リサイクルデザイン』は、リサイクル組合が設立された2年後の1994年9月に創刊されました。当時は「リサイクル」という言葉が世の中に認知されはじめた時期でした。雑誌名の『リサイクルデザイン』は造語ですが、このタイトルには、組合を設立したメンバーの熱い気持ちを反映しています。一次資源から製品を製造し、社会に流通させるメーカーとは逆に、家庭や企業から不要物を回収し、それを資源として再生する仕事は、これからの資源

循環型社会の在り方に大きく関わる仕事といえます。私たちはリサイクルを通じて、これからの社会や生活をデザインする仕事の一員なのだ、という思いが込められているのです。

4人の編集長が担当 雑誌づくりに奮闘

これまでに4人の編集長が制作を担当してきました。中野聰恭初代編集長の時代は、何もかもが手探りの雑誌づくりでしたが、宗村隆寛2代目編集長の時代には特集や連載などの各種の記事が掲載され、雑誌としての形が整ってきます。工藤健一3代目編集長の時代は「横浜G30プラ

ン」がスタートし、「ヨコハマ3R夢プラン」へと続くなかで、環境や資源リサイクルに関するさまざまな話題が誌面に登場します。藤本達也4代目編集長の時代になると、読者の皆さんに環境問題や資源リサイクルの知識が浸透し、記事は読者の関心の高いテーマを抽出したものになっていきます。

リサイクル組合は、「環境絵日記」を通じて、市民の皆さんとの交流にも力を入れています。本誌『リサイクルデザイン』も、読者の皆さんの声に耳を傾けながら、これからもさまざまなリサイクル情報をお届けしていきます。

創刊号(1994年9月)



第8号(1995年8月)



第50号(1998年10月)



第65号(2000年1月)



当初は、B5判4ページと誌面が少なく、表紙から記事が始まっています。タイトルが英文からカタカナに変更され、29号からは8ページに拡大。50号記念号では、創刊からの足跡を紹介しました。65号からはA4判14ページとなり、読者アンケートも始まりました。

第91号(2002年3月)



第151号(2007年3月)



第187号(2010年3月)



第200号(2011年4月)



91号から2色印刷になり、表紙がイラストになりました。124号には「りくみちゃん」の4コマ漫画が初登場。151号から全ページがカラー印刷となり、187号からは表紙に「RD」のロゴが登場。創刊200号記念号では、「りくみビジョン2020」を特集しました。

第211号(2012年3月)



第235号(2014年3月)



第247号(2015年3月)

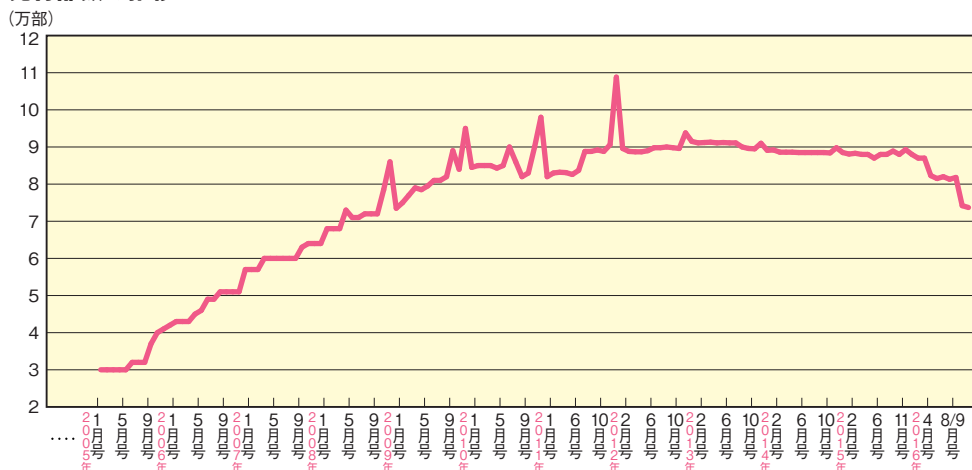


第257号(2016年3月)



211号に誌面をリニューアルし、若い主婦のイラストが表紙になりました。235号からはリサイクルの仕事をイメージした写真が表紙になり、247号からは組合員と町内会の皆さんが仲良く登場。257号以降は、町内会の皆さんをご紹介する表紙になりました。

発行部数の推移



(注) 1994年9月発行の創刊号から2004年12月発行の124号までは、発行部数の確認がとれないため、グラフには含まれていません。

2017年	2016年	2015年	2014年	2012年
4月	3月	3月	11月	4月
発行サイクルを月刊から季刊にリニューアル	表紙で町内会の皆さんを紹介	誌面が横組となり、表紙に組合員と町内会の皆さんが登場	資源集団回収による古紙の回収100%実施	資源集団回収による古紙の回収100%実施
				表紙がリサイクルの現場写真にリニューアル
				誌面サイズをA4にし、表紙をシンプルなイラストにリニューアル

歴代編集長インタビュー

初代編集長
中野 聡恭
創刊号～23号



当時の横浜市長の年頭挨拶が掲載された5号の記事

リサイクルの仕事を広く知ってもらうために雑誌を創刊

設立したばかりのリサイクル組合の存在を広く知ってもらうことと、リサイクル事業者の仕事を正しく理解してもらい、社会的地位の向上に取り組んでいくためには、自分たちから積極的に情報を発信することが不可欠だと考えて、『リサイクルデザイン』を創刊しました。

当時はタウン誌やフリーペーパーが注目され始めた時期で、自分た

ちもフリーペーパーを発行して、皆さんに情報を伝えていこうと考えたわけです。しかし、初めは手探りで、記事のテーマもすぐにネタ切れになり、苦労したことを覚えています。リサイクルの仕事は、資源物を提供してくれる生活者が欠かせないわけですから、生活者である読者を巻き込んで、読者参加型の記事づくりを進めていくようにしました。

法律の施行と「横浜 G30 プラン」スタートで記事が充実

創刊から2年経って、雑誌の役割や方向性が固まってきたこともあり、誌面の充実に力を入れました。判型をB5判からA4判に拡大し、ページ数も8ページ、10ページ、14ページと次第に増やしていきました。

当時、古紙の取引価格が大暴落して、リサイクル事業者にとっては大変な時期でもありました。読者の皆さんには古紙回収の状況や課題、リ

サイクル事業者の苦悩などについて誌面で訴えたり、「リサイクルデザインフォーラム」を開催して意見をいただいたり、討論を行いました。

「容器包装リサイクル法」「家電リサイクル法」「食品リサイクル法」などのリサイクル関連の法律が施行され、2003年には「横浜 G30 プラン」がスタートするなど、記事のテーマも盛りだくさんだったと思います。

2代目編集長
宗村 崇寛
24号～103号



古紙暴落の現状を伝える32号の特集記事

リサイクルデザインの歴史

年	月	出来事
1992年	10月	リサイクル組合設立
1993年	4月	環境事業推進委員会制度発定
1994年	11月	環境基本法施行
1994年	9月	「リサイクルデザイン」創刊。 初代編集長に中野聰恭就任
1995年	10月	佐・びんの分別収集市内45%で実施
1995年	4月	「リサイクルデザイン」を広報誌としてリニューアル
1996年	10月	容器包装リサイクル法の公布
1996年	6月	誌面「第1回リサイクルデザインフォーラム」を告知
1996年	10月	読者アンケートを開始
1996年	8月	2代目編集長・宗村隆寛就任
1997年	10月	「横浜市分別収集計画」策定
1997年	1月	粗大ごみ収集有料化
1997年	1月	誌面を4ページから8ページに拡大
1998年	10月	資源ごみの分別収集を週1回に変更
1998年	10月	創刊50号
1999年	1月	ペットボトルの分別収集開始
2000年	1月	誌面サイズをB5からA4に変更
2000年	2月	家庭ごみの排出を半透明袋に変更
2001年	4月	「容器包装リサイクル法」完全施行
2001年	4月	「家電リサイクル法」本格施行
2001年	5月	「食品リサイクル法」の公布
2002年	3月	ペットボトル分別収集全市実施
2002年	3月	全2色刷で8ページから10ページに拡大
2003年	10月	リサイクル組合創立10周年
2003年	12月	創刊100号
2003年	1月	「横浜G30プラン」策定
2003年	11月	別冊「リサイクル今とむかし」発行
2004年	4月	3代目編集長・工藤健一就任
2004年	4月	持ち去り禁止条項の追加
2004年	12月	「リくみちゃん」誌面初登場
2005年	4月	市内全域で10分別15品目の分別収集を開始
2007年	3月	全4色で誌面サイズをB2にリニューアル
2008年	2月	燃やすごみ等の収集回数を週3回から週2回へ変更
2010年	2月	誌面に「リくみちゃん」グッズの広告が登場
2010年	3月	表紙に「RD」のロゴが登場
2011年	1月	「エコハマ3R夢プラン」を策定
2011年	4月	創刊200号
2011年	5月	4代目編集長・藤本達也就任

歴代編集長インタビュー

読者との交流を深め、最新のリサイクル情報を届ける

「横浜G30プラン」が本格的に始まり、市内全域で10分別15品目の分別収集が実施されるようになったこともあり、資源物の分別に関する記事を繰り返し掲載しました。また、組合員が小学校や町内会に出かけて行って、リサイクルや資源物の分別について解説する「出前講師」をスタートし、講義の様子を誌面で紹介し、分別知識の普及に努めました。

宗村編集長の時代から読者アンケートは実施していましたが、もっと読者との距離を縮めたくて、「サポーターズミーティング」を定期開催し、皆さんと直接お会いして、さまざまな意見交換も行いました。

記事づくりでは、リサイクルに関する幅広い分野をテーマに選び、できるだけ最新の情報を提供するように心がけていました。

3代目編集長
工藤 健一
104号～200号



「横浜G30プラン」を紹介する
104号の特集記事

4代目編集長
藤本 達也
201号～



大幅にリニューアルした211号の
表紙と裏表紙

中心読者層を想定し、表紙や誌面構成を大胆に変更

組合が発行するフリーペーパーとして多くの皆さんに知っていただけるようになり、発行部数も10万部近くになりました。同じ表紙デザインや記事構成が長く継続していたので、誌面をリニューアルしたいと考えて、211号から大幅に変えました。

読者の中心ターゲットを若い主婦層に設定した表紙を採用し、これまでの掲載で評判のよかったテーマを

中心に記事をラインナップしながら、リサイクル事業者を改めてよく知ってもらうために、細かいところまで紹介する記事を掲載するなどしました。現在は、町内会の皆さんを中心にした記事構成にしており、表紙にも登場してもらうなど、読者との交流を深めるようにしています。

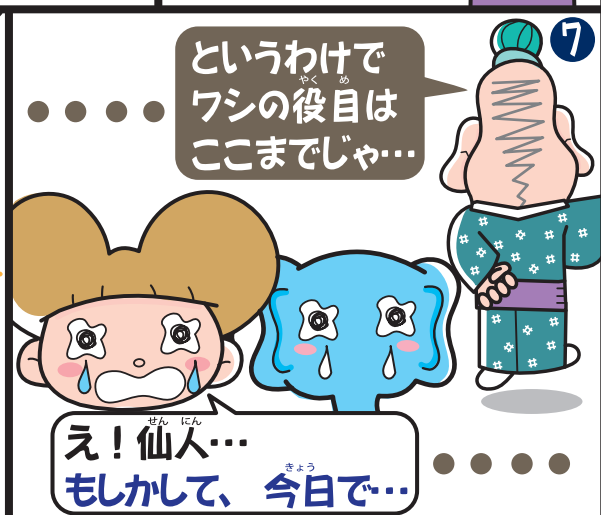
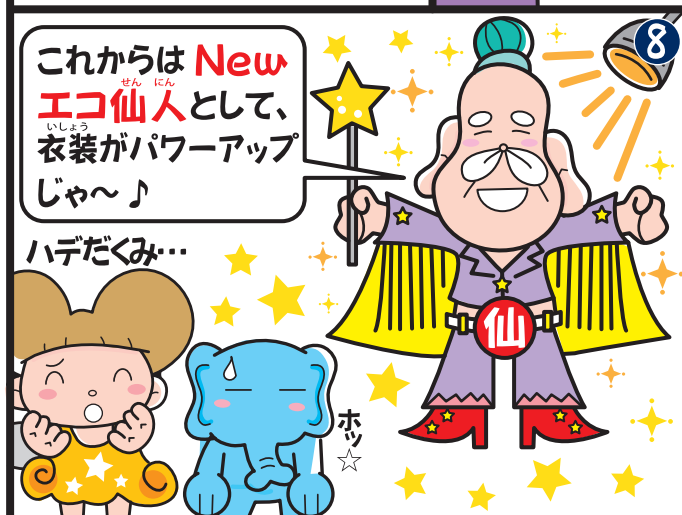
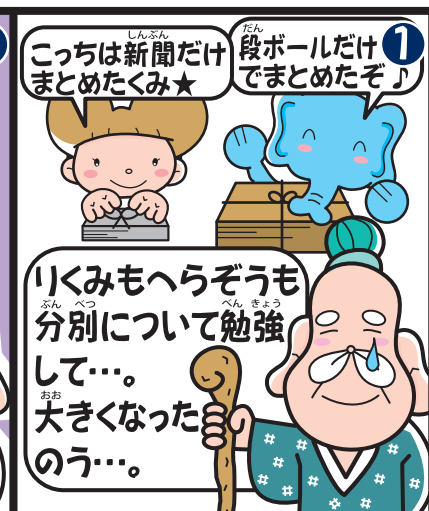
次号から季刊になりますが、これまで同様にご愛読をお願いします。



これでスッキリ!

No. 32 ふん べつ こう りくみの 分別講座

なぜ分別しなければいけないの?



始末の一品

リメイク料理編

Rd

今月の残りもの料理

鶏の唐揚げ



残ってしまった鶏の唐揚げは、時間が経つと温め直しても風味が落ちてしまいます。しかし、簡単にできるリメイク料理なら新しい一品としておいしくいただくことができます。

唐揚げ入りおにぎらず



材料(1人分)

- 唐揚げ……3個
- 卵焼き(薄焼き)
……卵1個+砂糖5g+白だし小さじ1
- レタス……1枚
- マヨネーズ……適量
- ご飯……茶碗軽く1杯
- のり……1枚(市販のおにぎらず用のり)

- ① のり一枚をラップの上に敷き、下半分に半量のご飯を平にのせる。
- ② 半分に切った唐揚げをご飯の上に置き、その上に卵焼き、マヨネーズを適量、最後にちぎったレタスをのせる。残りのご飯を平にのせて、上半分ののりをかぶせる。
- ③ ラップごとたたみ、形を整えて5～8分程度なじませたら包丁で半分にカットする。

唐揚げのベトナム風サンドイッチ

材料(1人分)

- バゲット…… $\frac{1}{3}$ 本(小型の場合は $\frac{1}{2}$ 本)
- 唐揚げ……3個
- 紅白なます……50g
- しその葉、レタス……各1枚
- スイートチリソース……小さじ1
- バター……適量

- ① バゲットは $\frac{1}{3}$ の長さに切り、横に切り込みを入れたらトーストする。唐揚げは4等分にスライスしてチリソースを絡めておく。
- ② 紅白なますの水気を絞り、こしょうを少々振っておく。
- ③ バゲットにバターを塗り、レタス、半分に切ったしその葉、①の唐揚げ、②の紅白なますを挟めばできあがり。



2017年3月号 通巻266号
2017年2月25日発行

RD NEWS



横浜型地域貢献企業最上位認定取得

『月刊リサイクルデザイン』は次号から季刊発行となります

『月刊リサイクルデザイン』は、1994年の創刊以来、月刊で発行してきましたが、次号の4月号から季刊発行になります。

今年で23年目を迎えた本誌ですが、これまで、ごみと資源物の分別知識の普及や横浜市のリサイクル事業者の現状、リサイクル組合の活動

など、さまざまなリサイクル関連の情報をご紹介してきました。

長年、横浜市民の皆さんにご愛読をいただき、現在も5万人以上の方にご支持をいただいています。次号より年4回発行となりますが、これまでと同様に、ご愛読を続けていただきますようお願いいたします。

今後の発行予定

春・SPRING号(4月号：通巻267号) 3月25日発行予定
夏・SUMMER号(7月号：通巻268号) 6月25日発行予定
秋・AUTUMN号(10月号：通巻269号) 9月25日発行予定
冬・WINTER号(1月号：通巻270号) 12月25日発行予定



自治会イベントにりくみちゃん出演！

本誌『月刊リサイクルデザイン』8・9月合併号に掲載した「りくみちゃんイベント出演依頼募集」の記事に、旭区の本村自治会からご応募をいただきました。1月22日に開催された「多世代ふれあい餅つき大会」への出演依頼で、先日、りくみちゃんが参加してきました。

イベントは、さまざまな年代の方が参加した賑やかな雰囲気の中、餅つき大会。りくみちゃんは子どもたちに大人気で、写真撮影や握手にひっぱりだことなり、大喜びで対応に追われていました。また自

治会のご担当者から「例年よりも多くの方にイベントにお越しくださいました」との声もいただきました。

自治会や町内会で子どもたちが参加する美化活動、夏祭り、運動会などのイベントにりくみちゃんを呼んでください。出演に特別な費用はかかりません。交通費などの実費負担のみで、皆さんのイベントに参加いたします。

問合せ先 横浜市資源リサイクル事業協同組合 事務局
「りくみちゃんイベント出演」担当：清水
TEL：045-444-2531
E-mail：mail@recycledesign.or.jp



表紙に登場！
今月の町内会
Recycle Designer

中山町自治会環境事業推進委員会

資源集団回収の徹底と立体ネット設置でカラス被害が減少

中山町自治会は約3400世帯が加入しています。「自分たちの町は自分たちできれいにしよう」を合言葉に、資源集団回収を徹底。資源集団回収奨励金（年間100万円以上）で立体ネットを毎年20台（7年間で130台）購入し、住

民に無償提供しています。これによりカラスの被害が大幅に減少しました。

スポーツフェスティバルでは専用ブースを設けたり、「ごみの分別と資源集団回収徹底」の啓発パレードなども実施しています。

表紙に登場していない環境事業推進委員の方々



中山町自治会
環境事業推進委員
手塚 八重子さん



中山町自治会
環境事業推進委員
金子 広司さん

リサイクルデザインのバックナンバーは、ホームページからご覧いただけます

<http://www.recycledesign.or.jp/rd/>

スマホ、タブレットなどはこちらのQRコードからアクセスできます。

